

中里町の**高**たか**筈**はず****という地名について

佐世保
遺跡
レポート

7月13日。番組あてに、「武辺城跡の上にある字名で、高筈が有りますが武辺城の一部の見張りの館があつてついた字ではないでしょうか？」というメールを頂きました。

早速、武辺城と何かしらの関わりがあるような記述がある文献はないか、調べてみましたが、残念ながら私の調べた範囲では見つかりませんでした。そこで、高筈という言葉の意味を調べたところ。「高筈」の意味は分かりませんでした。「高筈」を逆にした「**筈高**」で下記のような意味合いがあるそうです。

筈高【はずだか】とは

箆(えびら)に入れた矢の矢筈が頭上高く突き出ている・こと(さま)
強弓(つよゆみ)の勇士を形容する際しばしば用いる語。

ということで、確かに何かしら戦国の雰囲気を感じさせるもののように思いました。

図書館へ行き字名や地名に関わる書物を探したところ高筈のことを書いてある「**佐世保の地名は語る**」という書物を見つけました。それによると中里町の高筈はかつての高筈免であり、高筈の筈(はず)とは弓の末端を(ゆはず)矢の末端を(やはず)というように、**端(はし)**という意味である。高筈とはその名の通り、将冠岳から但馬岳に連なる山脈の西側で、中里の方からいえば最も高所の端に当たる山里である。とのことでした。

後ほどインターネットで検索したところ、実は高筈には地元の方しか知らないような展望所があり、そこからは愛宕山と相浦港が一望できるようです。確かにメールで言われるように見張り台を置くには絶好の場所かもしれません。高筈は弓張岳から将冠岳へ続くトレッキングコースの一部になっているみたいで、ぜひ一度その景色を眺めに高筈展望所へアタックしてみたいものです。



中里近辺の小字図

